

2024年6月21日金曜日20:00～21:30 にオンラインにて開催された勉強会の概要です。環境経済学者である京都大学公共政策大学院・経済学研究科の教授の岡敏弘様から「炭素生産性の中身を探る 真の炭素生産性と搾取要素」という題目でお話を頂きました。国ごとに見かけ上の炭素生産性を上げることよりも、各国の真の炭素生産を上げて、グローバル全体で炭素生産性を高めることの重要性が説明されました。

この勉強会には、当会の浅沼様、遠藤様、黒田和秀様、小寺様、吉田茂樹様、安間のほか、外部からも含めて合計23名の方が参加されました。

ご質問事項としては、①提示された炭素生産性の分解式を現実の事象（風力発電化、電力の完全輸入、石炭火力からの転換等）と整合的に読むための理解、②素材産業における現場の理解との整合性、③分解された要素間の因果性の有無、④この議論の有用性と悪用される可能性、⑤金融資本市場での議論との関係性、等々。

岡敏弘様、ご講演頂きありがとうございました。岡さんは、本講演のご提供により、まずは本会の客員会員となることができ、今後二年間は会費無料扱で、その後は入会金無に本会員（その時点から会費有料）に転換可能となります。

岡敏弘様のプロフィール：

1959年 岡山県生まれ

1983年 京都大学経済学部卒業

1988年 京都大学大学院経済学研究科後期博士課程修了

1988年 滋賀県琵琶湖研究所研究員

1993年 福井県立大学経済学部助教授

1997～98年 Visiting Professor, CSERGE, University College London

2000年 福井県立大学大学院経済・経営学研究科教授

2019年 京都大学公共政策大学院・経済学研究科教授

大学院修士課程では、エントロピー経済学とスラッファ経済学を研究。博士課程では、スラッファ経済学と環境経済学。琵琶湖研究所で、富栄養化の原因となる汚濁負荷の湖への流入を削減する対策の経済的評価を行うかたわら、環境政策に使うための厚生経済学の基礎を固める研究を行い、これで学位を取得(→『厚生経済学と環境政策』岩波書店1997)。1990年頃から、環境リスク管理(主としてリスク/ベネフィット分析や人命の価値)の研究を始める(中西準子横浜国立大学教授(当時)らと共同)。また、リスク論を人の健康から生態系へ拡張する試みの一環として、期待多様性損失(ELB)指標を開発。それを面向的開発問題に適用した。それらの成果は『環境政策論』岩波書店1999 などに収録されている。1992年頃から、環境税や直接規制といった環境政策の手段の選択の問題を研究(→『環境政策の経済学』日本評論社1997)。2007～2008年頃はEUの排出権取引制度を研究。外部負経済の概念を市場主義的なものから解き放つことを模索(「外部負経済論」『岩波講座 環境経済・政策学 第1巻 環境の経済理論』(岩波書店、2002年)第4章、95-122ページ)。また、環境経済学は、環境と成長の問題に戻るべきだと考えて、カルドアの成長理論を掘り起こす—スラッファへの回帰。スラッファもミシャンも自由度のある体系だ。原発事故後放射能汚染食品の規制の効率性評価に取り組んだ。2014年頃か

ら国際価値論の研究(またスタッフ回帰)。

(文責: 安間)